

厚生科学審議会 疾病対策部会  
造血幹細胞移植委員会（第60回）

資料2

令和6(2024)年2月29日

# スワブ検査&オンライン登録 導入に向けて

(公財) 日本骨髄バンク

# 骨髄バンクドナー スワブ検査&オンライン登録導入に向けたロードマップ<sup>o</sup>

R5 (2023) 年度	R6 (2024) 年度	R7 (2025) 年度	R8年度
<p><b>トライアル1 10検体</b></p>	<p><b>トライアル2 200検体</b></p>	<p><b>トライアル3 3000検体 専用システム開発</b></p>	<p><b>スワブ検査&amp;オンライン登録本格導入</b></p>
<p><b>検証内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JMDP職員対象</li> <li>・検査キット取り寄せから採取、HLA検査結果取得までを確認</li> </ul> <p><b>10月 トライアル1完了</b></p>	<p><b>検証内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>イベント会場や学域等を対象</u>として規模を拡大</li> <li>・ドナーリクルートからオンライン登録、HLAデータのシステム反映まで<u>一連の流れと作業量を確認</u></li> </ul> 	<p><b>検証内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>献血会場以外でドナー登録を希望する人を対象</u></li> <li>・<u>専用システム開発後、オンライン登録を開始</u></li> <li>・本格導入前に現在の新規登録者の1/10規模で<u>運営体制等を確認</u></li> </ul>	

# 令和5年度実施概要

## 【トライアル1】 10検体での検証

### 【目的】

被験者（日本骨髄バンク職員）によって自己採取した検体が検査可能であるか、また複数の検査会社による検査結果が確実であることを検証する。さらに運用面（工数やコスト含む）、手順に問題がないかを確認。検証の内容を踏まえて、令和6年度に実施するトライアル2へ繋げる。

【対象】10検体（日本骨髄バンク職員対象）

### 【実施事項】

【体制】想定フローに沿って実施

【期間】令和5年8月～9月

### 【検証】

- ① 運用手順
- ② 必要人員
- ③ 検査会社2社によるHLA検査結果比較
- ④ 検査結果受領方式
- ⑤ 説明資料が適切であるか
- ⑥ 経費

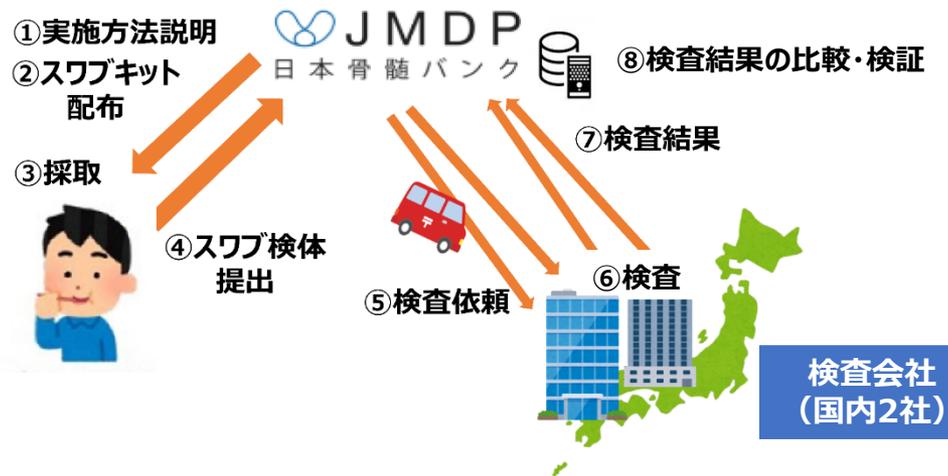
### 【結果】

検証内容については、いずれも問題ないことが確認された。  
 なお、検証③：2社によるHLA検査結果は、10例すべてにおいてドナー選択に必要な第2区域（※）まで確定でき  
**おり、その結果は一致していた。**

※例として「HLA-A\***24:02**:01」の場合、24:02までが第2区域となる

### 【実施フロー】

ドナーにて採取→ JMDP → 検査会社（2社）



# 令和6年度実施概要（令和5年度補正予算措置）

## 【トライアル2】 200検体での検証

### 【目的】

イベント会場や大学等を対象としてドナー登録を実施。ドナーへの呼びかけ、ドナー自身によるオンライン登録およびドナーの判定されたHLAデータを専用システムへ反映するまでの全ての工程と作業量、本格導入に向けての課題を確認。

【対象】200検体（一般のドナー登録希望者）

### 【実施事項】

【体制】想定フローに沿って実施

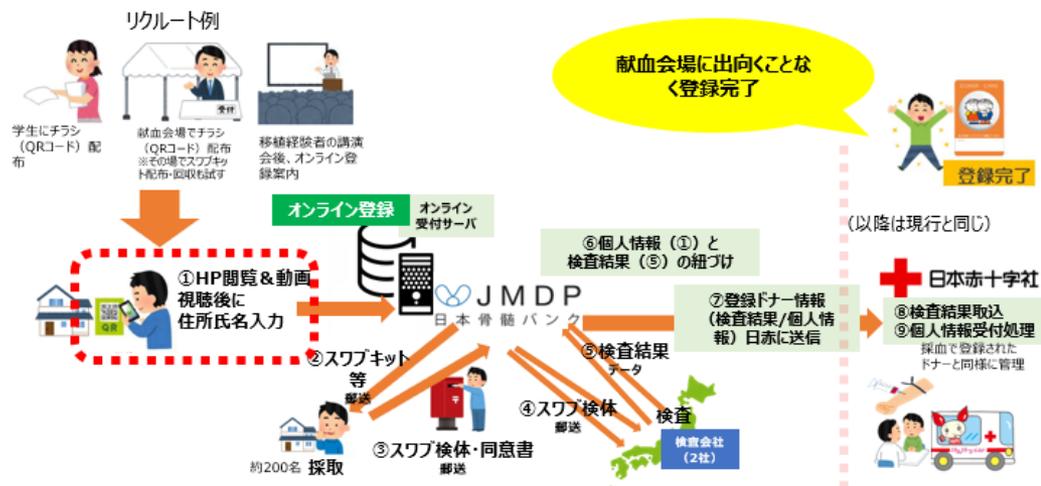
【期間】令和6年2月～9月

### 【検証】

- ① 運用手順
- ② 必要人員
- ③ 効果的なリクルート方法
- ④ 検査会社間のHLA検査結果比較
- ⑤ 検査結果受領方式
- ⑥ JRCへのドナー登録情報（HLA検査結果含む）連携
- ⑦ 説明資料が適切であるか
- ⑧ 経費

### 【想定フロー】

JMDPよりドナーへ検査キットの送付 → ドナーにて献体採取 → JMDP → 検査会社（2社）



# 令和7年度以降実施概要

## 【トライアル3】 3000検体での検証および本格導入まで

### 【目的】

トライアル2の内容を踏まえシステム開発を実施。

システム開発後、主にオンライン登録を希望するドナーを対象として現在の新規登録者数の1/10規模を想定し運用開始。

【対象】3000検体（一般のドナー登録希望者）

### 【実施事項】

【体制】想定フローに沿って実施

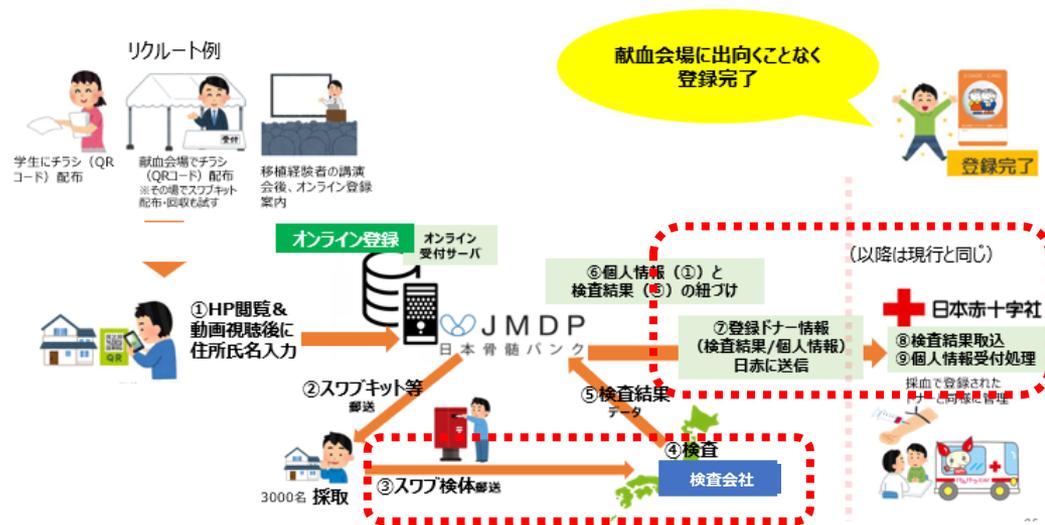
【期間】令和7年10月～令和8年3月

### 【検証】

- ①運用手順
- ②必要人員
- ③効果的なリクルート方法
- ④検査結果受領方式
- ⑤造血幹細胞提供支援機関（日本赤十字社）へのドナー登録情報（HLA検査結果含む）連携
- ⑥説明資料が適切であるか

### 【想定フロー】

JMDPよりドナーへ検査キットの送付 → ドナーにて献体採取 → 検査会社



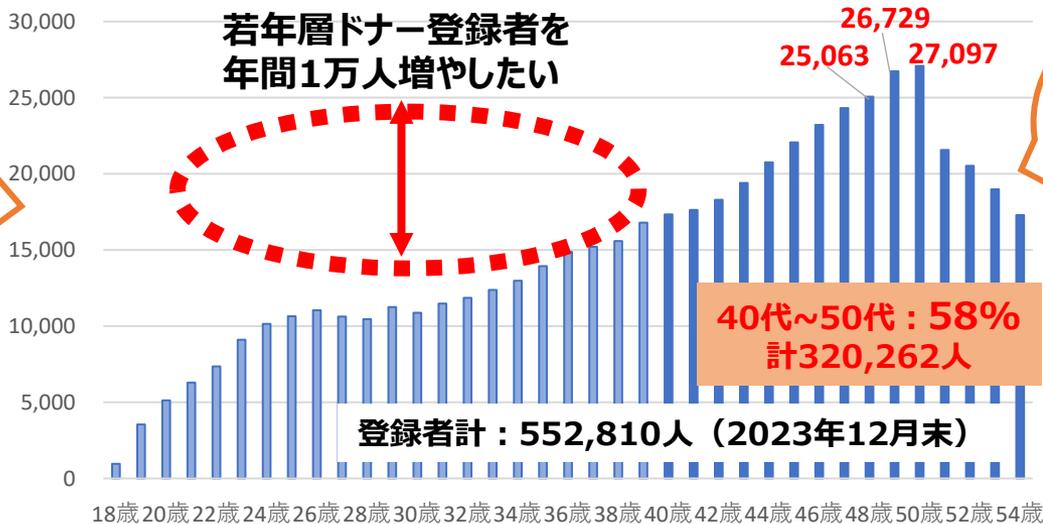
令和8年度～ 本格導入

# スワブ導入による効果とリテンション強化策

登録ドナー55万人の内58%が40～50代となっている。10年後には約23万人がドナー卒業となる。30代以下のドナーを増やすことで安定持続的な造血幹細胞移植の実施を目指す。

## ドナープール高齢化による規模縮小の回避に向け、若年層の獲得を目指します

近年、30代以下の新規ドナー登録者は年間2万人。あと1万人増やして、**計3万人の若年層登録が目標**です。



学生にチラシ（QRコード）配布  
献血会場でもチラシ（QRコード）配布 ※その他でスワブキット配布・回収を試す  
移植受容者の講演会後、オンライン登録案内

献血バス、献血ルームに出向かずともドナー登録が可能に



スワブでのドナー登録時には「友だち登録」をお願いします。リテンションに繋がる情報等発信していきます



登録時にE-Mailアドレス確認済  
→SMSだけでなくE-Mailでの情報発信も可能に



現在のドナー経験者の動画配信を活用



大学と連携して採血不要のドナー登録会を多数開催します



#つながりプロジェクトオレンジ  
Tsunage Project Orange  
知って、応援して、つながろう！



フォロワー獲得を目指し積極的に発信



#プロジェクトオレンジを通じてフォロワー10,000人達成  
もっと！もっと！！